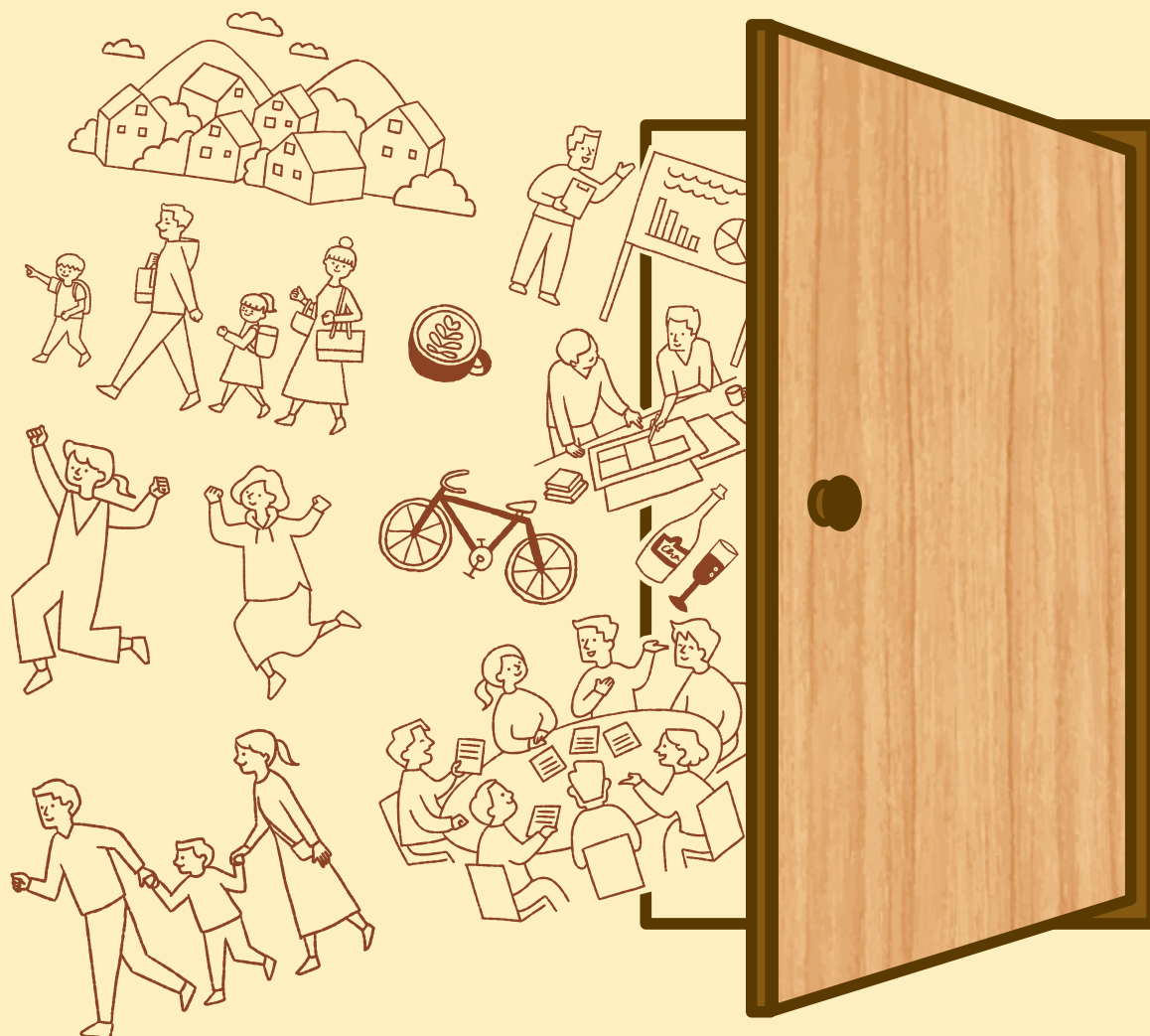


Nagano University



公立大学法人 長野大学
地域づくり総合センター
ニュース 2025



公立大学法人
長野大学
NAGANO UNIVERSITY

～似合うメイク・化粧品をその場で“お試しシミュレーション”～



高精細 3D CG 質感再現技術で化粧品の質感も再現

長野大学は地域に根ざした大学として、多様な連携活動を展開し、地域課題の解決に貢献しています。

企業情報学部田中法博教授は、長野県上田市の海野町商店街に店を構える老舗化粧品店「お肌の専門店わかまつや」と連携し、同店監修のもと、体験型化粧アプリの開発を行っています。体験型化粧アプリとは、「実際に化粧品を試しているような体験ができるアプリケーション」のことです。同教員は過去に化粧品メーカーとの共同研究によって実用化に成功した「高精細3DCG質感再現技術」を核に本共同研究を進めています。アプリケーションには、わかまつやが蓄積してきた化粧ノウハウを組み込むことで、デジタル美容分野での「上田ブランド」を確立していきます。

開発したアプリケーションは上田地域だけでなく、県外のユーザーにも提供する予定です。

どんな研究？



活動している教員のコメント



田中 法博教授

企業情報学部 (2025年度)
地域経営学部 (2026年度)

上田市化粧品店「お肌の専門店わかまつや」が存在することを知り、現在開発を進めている「肌および化粧品の質感を3DCGで再現するシステム」を活用することで、地域に新しい価値を創出できないかと考えたことが共同研究を開始する契機となりました。共同研究を進める中で、肌や化粧品の質感を扱うアプリケーションを実用化することの難しさを改めて実感しています。基礎研究レベルで得られた知見を、実際の接客や製品提案に活用できる形へと落とし込むには、多くの技術的・運用上の課題があります。現在は、わかまつやのスタッフの皆様の協力を得ながら計測を行い、肌および化粧品の質感再現精度の向上に取り組んでいます。今後は、現場で役立つ実用的なシステムとして完成度を高め、地域発の新しい美容・技術連携モデルへと発展させていきたいと考えています。



共同研究先からのコメント



若林 佳代様

お肌の専門店 わかまつや
代表取締役社長

わかまつやは海野町商店街にある創業100年を超える化粧品専門店です。私で4代目となります。

先代から受け継ぐ「常にお客さまのことを考えた品揃えや価値の提供」を大切に、地域に密着したお店づくりを心がけてきました。安心・安全・信頼感を軸に、化粧品を通して日々の生活にほんのちょっと彩りを添えられるよう、お客さまの心に寄り添い続けています。本共同研究を通じて、これまで感覚的に捉えてきた「肌や化粧品の質感」を客観的・科学的に捉えるという私にとっても新たな視点を得る事ができました。長野大学の専門的な研究と、地元商店街に根ざした現場での経験が結びつくことで、研究成果を実際の接客や提案に生かすことができたらいいなと思います。今後は大学と地域が協働するこのプロジェクトが、地域発の新たな価値創出や実践的な研究モデルとして広がることを期待しています。

～寝食を共にし、子どもの自立心・コミュニケーション能力を育む～



親元を離れた3泊4日の共同生活

長野大学では、地域の課題に寄り添いながら積極的にボランティア活動を行っています。

今年で第十回目の開催となる通学合宿は、長野県東御市滋野地区を中心に活動を行う市民団体「しげの里づくりの会」によって企画・運営されています。本合宿は、子どもたちが一定期間家族のもとから離れ、異年齢の仲間たちと協力し、滋野コミュニティセンターで共同生活を送りながら学校へ通う取り組みです。通学合宿期間中、子どもたちは炊事や掃除など、自分たちの身の回りのことは自分で行います。この合宿では、子どもたちが自己肯定感を育みながら、コミュニケーション能力や協力する姿勢、自立心、感謝の気持ちなど、生きる上で大切なことを自然な形で学び、身につけていきます。

通学合宿とは？

活動に参加した学生のコメント



澤田 夕嬉さん
社会福祉学部2年

今回、通学合宿のボランティアに参加し、生活の大半を自分たちの力でこなさなければならない子どもたちが、徐々に信頼関係を築きながら成長していく姿を見守れたことに、大きな喜びを感じました。生活を共にする中で、声掛けの難しさを実感し、大人の視点からだけでなく、子どもの立場からも考える大切さを学びました。大学生という、大人よりも一歩身近な立場だからこそできる関わりを、今後の社会福祉実習や支援に生かしていきたいと強く感じました。



協働先からのコメント



若林 幹雄様
しげの里づくりの会 会長

3泊4日の共同生活は子どもたちの成長にとってきわめて有効です。しかし通学合宿を支えるボランティアは高齢者が多く、子どもたちと心を開いて接するには限界があります。この溝を埋めていただいたのが長野大学の学生の皆様です。合宿前には、打ち合わせの機会をつくり、運営側の希望と併せて、学生さん自身が「このボランティアで何を学びたいか」を共有しあいました。合宿期間中は毎朝情報交換を行い、一緒になって通学合宿をつくっていただきました。子どもたちと寝食を共にする中で、勉強を見たり、相談にのっていただき、子どもたちも大喜びの通学合宿となりました。



～身近な川に生きる生き物を調査! 「川の宝物を探せ!」～



千曲川をフィールドとした環境学習

坂城町と長野大学が連携協定を結び、町民の学び・交流・地域づくりを促進するために実施している講座になります。年間を通じて、子ども向けの体験型講座から大人向けの学術講座まで幅広く講座を開講しています。今回取り上げる講座「川の宝物を探せ!」はそのうちの1講座になります。本講座では、千曲川の自然環境を生かし、小学生や保護者を対象とした環境学習を実施しました。当日は参加者と一緒に川の浅瀬へ入り、網を使って水生生物を採集しました。採れた生き物は観察用水槽に移し、河川環境への理解を深めてもらえるよう、生き物の特徴や生息環境について解説しました。

開講を予定している講座の情報については、毎年坂城町が発行している広報誌にて確認できます。

坂城町講座とは?

講師を務めた教員からのコメント



満尾 世志人教授

環境ツーリズム学部(2025年度)
共創情報科学部(2026年度)

講座を実施した中で、子どもたちが実際に水に触れ生き物を捕まえた瞬間の生き生きとした表情や歓声は、自然との直接的な触れ合いが持つ力の大きさを改めて感じさせてくれました。また、採集された魚や水生昆虫に対する純粋な疑問や関心に触れることで、専門的な知識を身近な学びとして伝えることの重要性を再認識することが出来たと思います。今後もこのような体験型の学習を通じ、未来を担う子どもや地域の方々にとって少しでも有意義な学びを提供する一助となれるよう努めてまいります。



2025年7月12日に千曲川で開講された「川の宝物を探せ!」の様子になります。当日は水生昆虫をはじめとする沢山の生き物を観察することができました。参加者からは「勉強になった!」「また開催してほしい!」という声もあがり、大好評の講座となりました。

